

第六編 商業 第三章 米

リシ第一期米收穫出廻リニ及ヒ内地市場稍軟弱ノ聲傳ハリ買込ニ深入リノ米商等ハ見越違ヒノ損失ヲ虞ルヤ一時約定物ノ移出激増ヲ來タシ商況小定ノモノアリシニ八月ノ暴風雨害ハ更ニ斯界ノ恐慌ヲ來シ相場一段ノ奔騰ヲナシ取引強硬ノ氣配ヲ招キ米界ノ亂調ヲ示シ一時石十七圓臺ヲ破リシモノ十五圓臺ニ低下スルニ至リシモ尙ホ内地相場トノ折合上拂々シキ荷動キナク一面却テ割安ノ外國米ノ輸入ヲ招致シタル形勢ナリシニ依リ著シク移出減退ヲ來シ前年本廳下産移出米ハ十萬四千六百四十餘石ノ減少ヲ見ルニ至レリ然ルニ本半移出價額ハ前年比シ一石ニ付二圓乃至三圓餘ノ高價ヲ持シタルニ依リ總價額ハ數量減少ニ反對ノ現象ヲ示シタリ

嘉義廳報告

内地米作ノ豊凶氣配ノ如何ニ依リ變動スベキ本島産米ハ内地前年作ハ豫想ニ反シ實收減ヲ唱フルニ至リシ爲メ定期米ノ暴騰ニ隨伴シ米月昂進ノ傾向ナリシモ八月ニ入り内地天候ノ順調ニシテ作柄豊穰ナル見込ノ說傳ハルヤ軟弱ニ趨キシモ十一月刈入期ニ於テ鎌入不足說及鮮壺米代用受渡等ノ好材料ニ剩餘セラレ復々十四圓ヲ超破シ未嘗有ノ高價ヲ現出シタルト一面風水被害ハ農間經營資金ノ窮迫ニ促進セラレ實急ヲ助長セシメタルヤノ感アリテ巨額ノ廻米アリ

臺南廳報告

舊年末農家資金ノ需要ハ本島米取引大ニ進捗セシメ前期殘米ハ忽チニ移出シ盡サレシノ盛況ナリシカ本年一期米ハ半年作以上ニ其ノ收穫ノ豫想セラレ、アルニ三月頃以來内地米價昂騰ノ影響ヲ受ケ本島米價ハ頗ル昂騰セリ此ノ折柄本島米ノ内地米取引所受渡代用米ニ採用セラル、ニ至リシ結果買約取引一層活況ヲ呈シ來リタリ此間前途米價騰貴ヲ見越セルハ勿論ナリ如斯シテ一期米カ其ノ出廻リ以前ニ於テ既ニ大半大手筋ノ契約済ナリシヲ以テ出廻リニ際シテハ單ニ受渡ヲ爲スニ過ギザリキ而シテ尙ホ多少ノ殘米ナキニ非ラザルモ農家依然前途ヲ樂觀シテ容易ニ安値賣放ヲ肯セズ愛許稍閑散状態トナリタルガ六月以降漸次天候ノ良好ナルト内地市場ノ米價下落ノ傾向ヲ有スルニ至リ本島米モ之レニ連レ稍下押ノ商況トナリ來レルハ免レザル所ト云フヘシ一方二期米植付ニ就テハ農家ハ概本近來米價ノ好勢ナルニ垂涎シ居レル際トテ其ノ植付面積ハ前年又

ハ半年ニ比シ頗ル擴張ニ努メタルガ如シ然ルニ其後米價ハ益々軟弱ノ商況ヲ呈シ來リシガ九月中旬ノ暴風雨ハ内地ニ於ケル九月下旬ノ暴風雨ト相呼應シテ襲來セルヲ以テ米價ニ非常ノ影響ヲ及ボシ亦復高價ヲ表ハシ來リ途ニハ突飛ノ高價トナリ前半年ノ高價ニ寄付キ來ルニ至レルニ此際内地在庫ノ外來ハ持越品處分ノ爲メ殆ント捨賣ノ傾向ヲ示シテ大ニ下落セシヲ以テ本島米移出ハ其ノ氣配ヲ挫折セシメラレタリ加之農家ハ依然高價ヲ持シテ讓ラズ内地沖著ノ値ハ内地市場ノ相場ト六十錢ノ開キヲ生ズルニ至リ移出ハ全然不引合ノ姿トナリ年末二期米出盛ノ時期ニ際會スルモ取引頗ル緩漫ヲ極メ半年ノ好況ハ見得ヘクモ非ラサリキ如斯本年米界ハ暴騰暴落ノ中ニ過ギタリ

第四章 茶

本年ノ茶市場ハ前章記載ノ如ク産額ノ減少ト品質ノ劣下ト海外市場ノ不況トニ依リ前年期ノ好況ニ反シ著シク銷沈シ途ニ不振ヲ以テ茶期ヲ終了スルノ已ムナキニ至レリ

蓋シ本年春季ノ天候ハ比較的適順ナリシヲ以テ春茶ハ略ホ半年ト等シク市場ニ現出シ其ノ搬出高モ差シテ前年ヨリ勦カラザリシガ再製家ハ前年期ノ好況ニ鑑ミ高値ヲ保持セルニ反シ買手ハ却テ其ノ反動ヲ豫期シテ買進マズ是ヲ以テ烏龍茶ノ取引ハ例年ニ比スレバ初甫ヨリ不活潑ニシテ五月中ノ輸出ハ前年ノ三分一ニ達セズ其ノ後海外市場殊ニ米國市場ハ前年ノ反動トシテ商情概シテ弱氣ナルニ利ハ各種茶ノ多額ノ輸入アリテ一入此ノ形勢ヲ助長シタルヲ以テ再製家側モ大勢ニ抗スルコト能ハズシテ漸次安値ニ落合ヒ六月ヨリ八月マテハ各々相當ノ輸出ヲ見タリ然ルニ八月末並ニ九月半ハニ於ケルニ一回

ノ暴風雨ハ痛ク本貿易ヲ害シ一面既製品ヲ損傷シタルノミナラズ他面原料ノ産出ヲ著シク減少シ品質劣下シテ烏龍茶ノ原料トナスニ足ラザルヲ以テ大ニ同茶ノ再製高ヲ減ジ其ノ結果トシテ烏龍茶ノ輸出ハ九月ニ於テ頓ニ減少シ十月ニハ多少増加シタルモ到底前年ノ額ニ達セズ十一月以降ハ殆ト休業同様に閉散トナリ輸出商ノ如キハ早ク取引ヲ終了シテ歸國ノ己ムナキニ至レリ

是ヲ以テ製茶貿易ノ大宗タル烏龍茶ノ相場ハ初期ニ於テハ比較的高價ナリシニ係ラズ次第ニ下落シテ期末ニハ現品稀薄ニ拘ラズ毫モ回復セズシテ遂ニ安値ノマヽニ終了セリ即チ左ノ如シ

大稻埕箱茶相場月別表

月次	等級		月次	等級		月次	等級		月次	等級	
	セ	ト		ス	フ		ア	オ		リ	ガ
五月	1,300,000	800,000	五月	700,000	550,000	五月	3,300,000	3,100,000	五月	2,600,000	2,500,000
六月	1,300,000	800,000	六月	700,000	550,000	六月	3,300,000	3,100,000	六月	2,600,000	2,500,000
七月	1,300,000	800,000	七月	700,000	550,000	七月	3,300,000	3,100,000	七月	2,600,000	2,500,000
八月	1,500,000	950,000	八月	950,000	650,000	八月	4,200,000	3,800,000	八月	3,000,000	2,700,000
九月	1,500,000	950,000	九月	950,000	650,000	九月	4,200,000	3,800,000	九月	3,000,000	2,700,000
十月	1,600,000	1,000,000	十月	900,000	600,000	十月	5,000,000	4,500,000	十月	3,500,000	3,000,000
十一月	1,600,000	1,000,000	十一月	900,000	600,000	十一月	5,000,000	4,500,000	十一月	3,500,000	3,000,000
十二月	1,600,000	1,000,000	十二月	900,000	600,000	十二月	5,000,000	4,500,000	十二月	3,500,000	3,000,000

烏龍茶ハ既ニ如此形勢ナルヲ以テ粗茶ノ裾物ニシテ包種茶ノ原料トナルモノ頗ル多ク爲メニ包種茶

ノ製造ハ花料ノ拂底並ニ其ノ騰貴ニ依リテ著シク困難ヲ感シタルニ拘ラズ稀有ノ繁忙ヲ極メ其ノ輸出量ノ如キハ前古未曾有ノ巨額ニ達シタリ

試ニ前記兩茶ノ島外搬出額前年對照ヲ示セバ左ノ如シ

烏龍茶及包種茶輸出表

月次	烏龍茶輸出		同 移 出		同 計		包種茶輸出		同 移 出		同 計	
	元四十五年	元四十四年	元四十五年	元四十四年	元四十五年	元四十四年	元四十五年	元四十四年	元四十五年	元四十四年	元四十五年	元四十四年
一月	1,000,000	1,000,000	100,000	100,000	1,100,000	1,100,000	1,000,000	1,000,000	100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000
二月	1,000,000	1,000,000	100,000	100,000	1,100,000	1,100,000	1,000,000	1,000,000	100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000
三月	1,000,000	1,000,000	100,000	100,000	1,100,000	1,100,000	1,000,000	1,000,000	100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000
四月	1,000,000	1,000,000	100,000	100,000	1,100,000	1,100,000	1,000,000	1,000,000	100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000
五月	1,000,000	1,000,000	100,000	100,000	1,100,000	1,100,000	1,000,000	1,000,000	100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000
六月	1,000,000	1,000,000	100,000	100,000	1,100,000	1,100,000	1,000,000	1,000,000	100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000
七月	1,000,000	1,000,000	100,000	100,000	1,100,000	1,100,000	1,000,000	1,000,000	100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000
八月	1,000,000	1,000,000	100,000	100,000	1,100,000	1,100,000	1,000,000	1,000,000	100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000
九月	1,000,000	1,000,000	100,000	100,000	1,100,000	1,100,000	1,000,000	1,000,000	100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000
十月	1,000,000	1,000,000	100,000	100,000	1,100,000	1,100,000	1,000,000	1,000,000	100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000
十一月	1,000,000	1,000,000	100,000	100,000	1,100,000	1,100,000	1,000,000	1,000,000	100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000
十二月	1,000,000	1,000,000	100,000	100,000	1,100,000	1,100,000	1,000,000	1,000,000	100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000

計	十二月	共計	共計	共計	共計	共計	共計	共計	共計
計	十二月	共計	共計	共計	共計	共計	共計	共計	共計

而シテ紅茶ハ其ノ生産ニ於テハ前年ニ比シ大差ナシト雖トモ歐米市場ハ前述ノ如ク頗ル不況ニシテ特ニ倫敦市場ハ前年ニ比シ約二片ノ下落ヲ示シタルヲ以テ輸出ノ機會ヲ得ス空シク形勢ヲ觀望シテ輸出ヲ見合セタルヲ以テ其ノ額ハ著シク減少シテ前年ノ半ニ達セズ粉茶ノ輸出ハ近來茶素製造ノ爲メ新需要ヲ喚起シ其ノ相場ヲ高メタルガ故ニ其ノ價額ハ前年ヨリ少シク増加シタリト雖トモ其ノ數量ハ製茶總額ノ減少ト共ニ減少セリ

大勢既ニ叙上ノ如クナルヲ以テ綠茶並ニ各種副産茶ノ取引モ悉ク減少シ結局製茶ノ總搬出高ハ一千八百九十四萬九千七百九十五斤其ノ價額六百八十二萬七千五百一十一圓ニ過キズシテ之レヲ前年ニ比スレバ數量ニ於テ百四十九萬六千六百一十一斤ヲ價額ニ於テ四十萬八千五百一十一圓ヲ減少シタリ即チ左ノ如シ各種製茶島外搬出高表

種類	數量 (斤)		價額 (圓)	
	輸	出	輸	出
烏龍茶	一、七九三、四〇一	四、六〇九、九七	一、一〇〇、九四九	四、〇五七、六八八

前年計	包種茶		紅茶		番茶		粉茶		莖茶		綠茶	
	計	前年計	計	前年計	計	前年計	計	前年計	計	前年計	計	前年計
二〇〇、八七、三三八	一八、二五六、四八五	二〇〇、八七、三三八	六九三、三二〇	一八、九四九、七九五	二〇〇、四四〇、八五六	七、一四三、三二七	一、三三、七〇五	七、三三、六〇三	一、五三、五七八	一、三三、七〇五	七、三三、六〇三	一、三三、七〇五

尙ホ參考ノ爲メ臺北廳ノ報告ヲ掲グレハ左ノ如シ

臺北廳報告 製茶ハ本年春季以來包種茶ノ取引頗ル活氣ヲ帶ビ且ツ山方製茶農家ハ前年茶價不廉ノ高氣配ヲ持シ茶況大ニ活躍ノ景氣アリシモ烏龍茶ノ初期以來外商ノ買込ニ大ニ引締ノ氣配アリシト包種茶高價ノ爲メ生茶ノ多クハ之レニ吸取セラレ自然一般生茶ノ相場低廉ナラザリシニ依リ抄々シキ取引ナク夏期烏龍茶向キ生茶ノ出廻リ盛期ニ入り洋行買入レノ意向依然安値ヲ唱ヘ加フルニ六月中降雨過多ノ爲メ茶葉ノ品質ヲ害シ又ハ暴風雨ノ被害アリシ等價格大ニ低落シ氣配軟弱ノ取引行ハレタリ次テ秋冬茶ニ於テ包種茶ハ荷捌キ活氣ヲ持シタルモ烏龍茶ハ著シキ變化ナク平靜ニ茶期ヲ終ルニ至レリ要スルニ本年茶況ハ例年ニ比シ著シキ異動ヲ認メズト雖トモ敘上ノ結果烏龍茶輸出額ハ一千七百九十九萬三千四百餘斤ニシテ前年ニ比シ三百二十三萬〇八百六十餘斤價額一百十七萬〇二百三十餘圓ヲ減少シタリ包種茶ハ本年五百九十八萬九千九百七十餘斤ヲ輸出シ前年ニ比

第六編 商業 第五章 酒類

シ一百七十九萬八千十斤價額七十五萬二千六百五圓ヲ増加シ烏包兩葉總計ニ於テ前年ニ比シ一百四十三萬二千七百五十餘斤價額四十一萬七千六百三十圓ノ減少ヲ見ルニ至レリ

第五章 酒類

本島ニ於ケル酒類ノ需用ハ前報告記載ノ如ク逐年増加ノ趨勢ナルガ本年ハ其ノ原料タル米ハ又々昂騰シテ其ノ製品モ從テ騰貴シタルニ拘ラズ其ノ需用ハ叙上ノ趨勢ニ乘ジテ益々増加シ一面下流社會ノ需用ニ應ズベキ島内生産額モ著シク増加シタルガ上ニ他面内地人竝ニ中流本島人ノ需用品タル内地清酒ノ如キハ大喪ノ爲メ幾分内地人側ノ消費ヲ減ジタルニ拘ラズ本島人側ノ需用ハ逐年普及ノ傾向ナルヲ以テ内地ノ不味ニ似ズ本島ニ於テハ其ノ賣行頗ル活潑ニシテ又々其ノ移入ヲ激増セリ  
本島製品ノ狀況ニ就テハ前章記載ノ生産高表ニ依リテ推知スルヲ得ベク内地清酒ノ移入ノ狀況ニ就テハ左表ニ依リ其ノ大體ヲ想像スルニ足ル即チ左ノ如シ

清酒移入高表

月次	四十五年		四十四年		四十四年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
一月	九五九三	三七二九一	五九五	四〇、五五六	一四、一三三	五三、二一九
二月	一一、九一〇	四三、三九九	三三二	二二、二六九	八、五三三	三一、六六五
計	一九五、七五四	八、二、六九〇	八、五九二	五四〇、八三五	二八、二二〇	四八〇、四〇九

第六編 商業 第六章 麥粉

第六章 麥粉

本島ニ於ケル本品ノ需用モ逐年増加ノ趨勢ナルガ故ニ本年モ又々其ノ需用ヲ激増シテ商況頗ル活潑ナリキ蓋シ本年ニ於ケル内地ノ麥粉市場ハ外粉ノ騰貴ニ依リ概シテ高價ナリシニ拘ラズ本島ニ於テ米價騰貴ノ爲メ麵類ノ需用著シク増加シ其ノ製造業ハ前章記載ノ如ク顯著ナル發達ヲ遂ゲ競フテ其ノ製出ニ努メタル結果本品ノ需用ハ近年頗ニ激増ノ傾向ヲ來シ殊ニ本年ノ如キハ米價騰貴シテ未曾有ノ高

計	十二月	十一月	十月	九月	八月	七月	六月	五月	四月	三月
數量	一九五、七五四	三八、六三二	二六、一九六	二二、一七七	一六、五二九	一〇、一三一	一〇、〇四七	一五、七〇八	一〇、三九九	一三、三三三
價額	八、二、六九〇	一、六四、五九一	一一、三、五八七	九、五、六一九	六、九、七六二	四、三、〇七五	四、一、三三三	六、四、二三七	四、一、三三三	五、四、七六五
數量	八、五九二	一、六九六	八六四	八六四	四四六	四二五	五九二	六六六	六一一	七九三
價額	五四〇、八三五	一〇、六、二七九	五四、七四七	五二、三六四	二八、〇二八	二七、〇五五	三六、六九四	四〇、八〇六	三八、五〇七	四八、三二五
數量	二八、二二〇	三三、三九二	一九、五六六	二二、六九一	七、二八九	七、五〇九	八、〇八〇	六、七〇二	五、八一四	六、四九九
價額	四八〇、四〇九	八四、七五八	七四、七九八	四六、二二〇	二六、二四九	二八、七四一	二九、八六七	二四、八二〇	二二、〇九六	二五、二三四
數量	九、五二七	一、七六七	一、三四三	一、一八四	四九六	四九四	四二〇	三九四	七〇三	六二一
價額	五八、六、五五〇	一一、〇、〇七	八三、五九六	七二、〇九九	三三、二七八	二九、九八四	二六、〇七四	二四、九四一	四三、六六六	三六、八〇八

價ヲ示セルヲ以テ本品ノ需用モ亦タ激甚ナル増加ヲナシ移入ハ勿論輸入モ激增シ實ニ空前ノ盛況ヲ呈セリ試ニ左表ヲ見バ想半ハニ過ギルモノアラシ

麥粉島外搬入高表 (單位斤)

月次	移入		輸出		計	
	大正五年	四十四年	大正五年	四十四年	大正五年	四十四年
一月	1,028,262	1,174,498	8,520	52,170	1,036,782	1,226,668
二月	1,497,869	1,475,125	7,409	285,234	1,505,278	1,760,449
三月	2,209,941	1,025,944	74,086	93,341	2,135,027	1,933,055
四月	2,199,658	1,199,756	22,126	169,102	2,177,884	1,318,858
五月	2,630,510	1,700,743	122,246	85,201	2,508,756	1,785,944
六月	1,507,622	1,066,690	16,299	342,656	1,521,910	1,359,346
七月	1,125,948	1,482,576	59,609	118,540	1,175,357	1,601,126
八月	2,856,792	1,052,278	90,836	64,271	3,765,178	1,169,906
九月	1,076,307	1,249,106	331,339	275,997	1,099,644	1,776,703
十月	2,656,572	1,621,068	31,858	127,798	2,688,430	1,748,866
十一月	2,825,157	2,159,336	157,334	110,010	2,982,591	2,269,166
十二月	1,809,266	1,892,635	84,831	31,486	1,894,000	1,924,111
計	23,423,906	17,000,065	2,063,033	1,507,226	21,848,949	18,507,491

今參考ノ爲メ臺北廳ノ報告ヲ掲グレハ左ノ如シ

臺北廳報告

麥粉ハ前年關稅増課ニ依リ外國粉ノ輸入大ニ減退シ自然内地品ノ移入ヲ増加シ賣行良好ノモノアリシモ外國品ハ品質優良ナルガ爲メ全盛内地品ノ驅逐スル所トナラズ本年淡水港(基隆港ナシ)ニ於ケル輸入ハ八萬千八百餘圓ニシテ前年ニ比シ二千四百九十餘圓ヲ増シ内地品移入ハ基隆港(淡水港ナシ)ニ於テ一百八萬三千餘圓前年ニ比シ三十八萬三千六百餘圓ヲ増加セリ

第七章 乾魚及鹹魚

本島ニ於ケル本品類ノ需用ハ逐年駁々乎トシテ増加ノ傾向ナルカ本年亦タ此ノ趨向ニ乘シテ顯著ナル増加ヲ示シ未曾有ノ盛況ヲ呈セリ蓋シ本品類ノ大部分ヲ占ムルモノハ内地ヨリ移入セラル、鹽鱈及乾鰯ニシテ其ノ内地相場ハ前年ニ於ケル支那ノ動亂モ漸ク沈靜ニ歸シタルガ故ニ概シテ強含ミナリシノミナラズ其ノ漁期ニ於テモ概シテ不漁勝ニシテ本島ノ移入最盛期ニ當リ相當強氣ヲ維持セシニ拘ラズ島内ノ販路ハ逐年山間僻地ニ向テ開拓セラル、ガ故ニ春期ノ移輸入既ニ少カラザルガ上ニ十月以降ハ前月ノ暴風雨ニ依リ人氣俄然挫折シタルニ拘ラズ著シク其ノ移輸入ヲ増加シ稀有ノ盛況ヲ現セリ試ミニ左表ヲ見ハ其ノ盛況ヲ想見スルニ足ラン

乾魚及鹹魚移輸入高表

月次	移入		輸出		計
	數量	價額	數量	價額	
一	二四三、七八一	二八、四五一	一一、四七二	一三、三三九	一〇、五七〇
二	三六八、三六五	三四〇、一二二	五六、九九二	六、四九二	四、七四二
三	四七九、一六六	四二四、九八九	七七、九二六	九、七九四	一四、九四八
四	三六二、四二二	三七九、八六八	三四、七三六	三、一〇〇	三〇、四六三
五	一四八、五六四	一一七、五三五	一三、八〇九	一、一七三	一〇、六一〇
六	三、六五二、七五一	三八〇、一四九	八、六二九	七、六八	六、一七三
七	二七三〇、五九九	二八二、二六三	一四、二九一	一、四四五	一八、六二九
八	二、五九三、八二二	三二二、六五一	一一〇、一四九	一〇、七二二	四九五、七九
九	二、五〇七、五九二	二四〇、五四八	九五、八七五	三、二七九	二九八、八八八
十	七三、八二五、一〇	五五九、九三三	二二二、六七〇	八、一七八	一九七、四〇七
十一	五、七五一、三一九	四四七、三二七	四一、六三五	五、〇〇二	三三、〇四七
十二	五、九五二、六八三	五六七、五八六	四一、七五二	四、一八、八二八	三六、九六六
計	四六、五九三、七四〇	四、四四四、三九七	三、二九一、五四〇	八三六、二七〇	六八、八二七

第八章 紙

本島ニ於ケル本品ノ需用ハ文化ノ進ムニ從ヒ大體ニ於テ逐年増加ノ趨勢ナルコト前報ニ記載スル所ノ如シ而シテ本年モ亦タ此ノ趨勢ニ駕シ多少ノ増加ヲ示シ荷動比較的活潑ナリシニ似タリ蓋シ本島ニ消費セラル、本品ハ大別シテ本島産粗唐紙輸入各種唐紙、移入和紙及ヒ同洋紙ノ四種トナスベシ其ノ中本島産粗唐紙ハ前章記載ノ如ク少シク減少シ輸入各種唐紙モ前年ノ持越多額ノ爲メ其ノ輸入ヲ減少シタリト雖モ和紙ハ年來ノ趨勢ニ乘ジテ又々其ノ移入ヲ増加シ洋紙ノ如キモ同一ノ状態ニ依リテ増加シタルノミナラズ包種茶ノ輸出増加等ニ依リテモ其ノ需要ヲ増加シ之レカ供給ノ爲メニ時劇烈ナル競争ヲ現シ旁々以テ其ノ移入ヲ増加スルニ至レルモノトス

試ミニ本品ノ移輸入狀況ヲ表示スレバ左ノ如シ

紙移輸入額表 (單位圓)

月次	移入		輸出		計
	數量	價額	數量	價額	
一	五九、八六四	五二、五六四	一四、九六〇	二二、六八八	七四、八二四
二	八一、九五五	六三、七九九	一六、七三八	一八、八三〇	九八、六七三
三	八五、四一七	八三、五一六	一五、三四四	二一、五五四	一〇〇、七六一
四	八二、三二二	七七、八七五	二二、九八四	三三、七五九	一〇六、二九六
五	七六、七二〇	七四、七六三	二二、四四八	二五、九九一	一〇一、七五八
計	四一五、九三三	四、四四四、三九七	三、二九一、五四〇	八三六、二七〇	六八、八二七

計	十二月	十一月	十月	九月	八月	七月	六月
八三八、二二二	七四、三五九	八三、七九四	六五、一五一	四〇、五九五	五七、五七四	六五、九九二	六四、四一九
七五五、七八三	六四、二二一	六二、九九〇	六一、六二二	四五、六三三	五六、九九九	五〇、六〇八	六一、二二二
二〇九、七三五	一四、七九一	八、〇九八	三三、六六二	一八、二九〇	三三、七六二	一六、〇三三	一一、六四五
二四二、三八五	八、九四六	一六、一四八	二二、六九四	一四、八二五	二二、二八三	三三、一〇三	二二、五六五
一、〇四七、八五七	八九、一五〇	九一、八九二	八八、八一三	五八、八八五	八一、三三六	八一、〇一五	七六、〇六四
九九八、一六八	七三、一五七	七九、一三八	八三、三〇七	六〇、四五八	八〇、二八二	八三、七一〇	八三、七七七

### 第九章 禮拜紙

本島ニ於ケル本品使用ノ陋習ハ尙ホ未タ改ムルニ至ラズシテ今尙ホ盛ニ消費シツ、アルヲ以テ一面島内ニ於テ盛ニ之レカ製造ヲナシツ、アルノ外其ノ不足額ハ依然トシテ對岸ノ供給ヲ俟チツ、アルコト前報ニ記述セル所ノ如シ而シテ本年ハ前年ニ比シ其ノ需要ハ大喪ニ依リ幾分ノ減少ヲ來シタルニ似タレドモ大ナル徑庭ナリ島内生産ハ前章記載ノ如ク多少ノ減少ヲ示セドモ對岸輸入ハ其レ丈ケ幾分ノ増加ヲ示シタリ其ノ輸入狀況ヲ見ルニ陰曆正月即チ二月ニハ需用最盛期ノ事トテ多額ノ輸入アリ其ノ後一箇月ヲ隔テ四月及五月ニモ戎克數多入港シテ多量ノ本品ヲ輸入シタルヲ以テ夏期ノ需用期即チ舊

月次	九	八	七	六	五	四	三	二	一
數量	一八五、二八八	三一一、四九一	一五二、九五二	二五二、一八二	三〇三、九五三	一五九、九一四	二六五、七四三	三三一、八七八	三七一、三三三
價	三〇、四七四	五二、七九四	二五、〇一九	四二、五六四	五一、五二九	二七、一六二	一一、八三二	三三、九五七	三三、四九三
額	二六、九四七	二六、六七三	三、三三〇	一〇、七四〇	一五、五三九	三、八六九	三、六三三	一五、五七四	一三、三三三

盆前ニハ其ノ輸入却テ減少スルノ奇現象ヲ呈シ爾來大喪ニ遭遇シ例年ノ如ク盛大ナル祭典ノ舉行ヲナサザリシニ拘ラズ輸入ノ最大市場タル臺北ニ於テ浸水ノ爲メ本荷ヲ敗棄シタルモノモアリテ品拂底ヲ來シタルヲ以テ各月相當ノ輸入アリ殊ニ年末ニハ大ニ其ノ額ヲ増加シタルヲ以テ同市場ハ寧ろ盛況ヲ呈シタリキト云フベシ

禮拜紙輸入額前年對照表

計	十一月	十二月	計
二二,八六,二五九	一九,九,五五四	二〇,五,六七五	二〇,四,七,五五九
二二,一七,七三八	一五,九,七〇三	一〇,九,九七三	二九,五,四一七
三八,九〇,一一一	五,六,〇三五	三,七,六一七	三三,五,一〇一
三,四三,四五〇	一八,二〇三		二五,七,七三五

### 第十章 本島製夏帽子

本島製夏帽子ノ重ナルモノハ林投帽トナス本帽子ノ製造狀況ハ大體前章ニ記述セル所ノ如シ而シテ其ノ商狀ハ前年ノ夏期ヨリ本年ノ春期マデハ海外ヨリノ注文頻來ニ依リテ稀有ノ好景氣ヲ持續シ夙夜製造ヲ勵ミテ移出ニ努ムルモ尙ホ之レニ應ジ切レザル盛況ヲ呈セリ其後四月ノ端境期ニ於テハ歐米輸出品ニ對スル抗議陸續來着シ爲メニ一頓挫ヲ來シタリト雖ドモ既ニ前來ノ風潮ニ乘ジテ著シク其ノ製造能力ヲ増加シタルヲ以テ其ノ價格ハ少シク下落シタルニ拘ラズ其ノ移出ハ夏季閑散期ニ於テスラ可ナリ繁忙ニシテ殊ニ十月以降男子帽ノ輸出期ニ入リテ以來ハ再ビ春期ノ如キ盛況ヲ呈セリ其ノ相場ハ生産額ノ増加ト共ニ漸次下落ノ傾向ヲ示シ殊ニ年末ノ如キハ不味ヲ以テ終リタリト雖ドモ尙ホ多少ノ餘裕ヲ存セシヲ以テ製帽界ハ未ダ之レガ爲メニ何等ノ惡影響ヲ蒙ルコトナク寧ロ好況ヲ以テ取引ヲ了シタルモノト稱スベク其ノ數量ノ如キハ著シキ増加ヲ示シタルヲ以テ全年ヲ通ズレバ恐ク空前絶後ノ

盛況ヲ示シタルモノト謂ツベキナリ

大甲帽ハ其ノ産額少ナキヲ以テ其ノ商況ニ就テモ特ニ記載スベキ事項ヲ認メズト雖ドモ尙ホ林投帽ト略ホ同一ノ狀況ニ依リ好況ヲ示セルモノ、如シ  
試ミニ島外搬出帽ノ検査高表ヲ示セバ左ノ如シ

移出及輸出検査高表 (單位箇)

月次	林投帽		大甲帽		合計	
	合格	不合格	合格	不合格	合格	不合格
一月	一〇一,〇七七	一〇,四六〇	四一,六一	七五〇	一〇五,三三三	一一,二一〇
二月	八六,一八八	一〇,六九四	三一,五五四	一,二九五	八九,三三二	一,一九八九
三月	一一〇,一〇九	一八,四四八	七二,四七	一,八九七	一一七,三五六	二〇,三三九
四月	一一一,六六〇	一七,二三八	六五,三一一	二,〇三三	一一八,一九一	一九,二六〇
五月	九七,七六四	一九,三五七	一六,八二五	四,六四二	一一四,五八九	二二,九九九
六月	二九,四八三	五,六〇一	八,九五七	一,二七六	三八,四四〇	六,八七七
七月	五九,一九二	六,六一〇	三一,二二五	五〇三	五七,三二七	七,一一三
八月	三六,八〇一	三,八三七	六	六	三六,八〇七	三,八三七
九月	六八,二七四	五,六三八	九七	九七	六八,三七一	五,六三八
十月	九一,五四四	一四,二七一	四〇九	一	九一,九五三	一四,二七一
計	二二,八六,二五九	二二,一七,七三八	三八,九〇,一一一	三,四三,四五〇	三三,四三,四五〇	三,四三,四五〇



十一月	八九、二七五	二二、五五二	一一、二八二七	三四四	四	三四八	八九、六一九	二二、五五六	一一、二七〇
十二月	六七、八一三	一八、三五二	八六、一六四	九九三	二五五	一、二四八	六八、八〇六	一八、六〇六	八七、四一三
計	九四四、一八〇	一五四、〇七二	一、〇九八、二三七	五、八四七	一、二六四四	六四、四九三	九九六、〇二九	一六六、七〇二	一、一六二、七三〇

尙ホ參考ノ爲メ新竹廳報告ヲ掲グレバ左ノ如シ

新竹廳報告

林投帽ハ前期婦人帽子ノ打撃ニ依リ稍沈静ノ姿ナリシガ三月頃ヨリ普通帽子ノ注文アリ價額モ相當ノ程度ヲ保チ當時大ニ望ミテ囑シ居タルニ下半年期ニ入り再ヒ婦人帽子ノ賣買行ハレ又々普通帽子ノ不況トナリ反型ニ婦人帽ノ好況ヲ呈セシモ仲買業者ハ前期ノ覆散ヲ戒シメツ、アリタルト一方輸出地商館ヨリ直接産地ニ出張買集ノ策ヲ取ルニ至リタルニ依リ賣買競争等ハ無カリシモ爲ニ産地仲買業ハ利益ヲ奪ハル、ノ形勢トナリタリ

十二月ニ入り價格ハ突然三割以上ノ下落ヲ來セリ蓋シ十二月ハ輸出期節ナルガ故ニ輸出商ハ十一月マデニ所要數ヲ充タス爲メ買競ヒテ爲スモ既ニ此期ヲ經過セバ勢下落ヲ免レザルモノニシテ如斯ハ例年ノ事ナルニモ拘ラズ仲買業者ハ多少ノ損失ヲ受ケタル者アリタルガ如シ

第十一章 綿布

大甲帽子ハ林投帽ノ流行以來全ク衰頹ニ陥リタルモ優等品ノミハ毎期多少ノ賣行アリテ何時カ流行ノ變化ニ伴ヒ再興ノ時期アルヲ豫想シ居リシニ當期下半年期ニ入り内地商人産地ニ入り込ミ盛ニ買取ニ著手セシモ品薄ノ爲メ取引數多カラス今尙ホ繼續買取中ナリ或ハ林投帽粗製濫造ノ反響ハ途ニ此ノ變遷ヲ見ルニ至リタルナラン乎

月次	移		入		輸		入		計	
	四十五年	四十四年	四十五年	四十四年	四十五年	四十四年	四十五年	四十四年	四十五年	四十四年
一月	三七〇、四六〇	二〇四、〇四二	六二、六二〇	二八、三七五	四三、三〇八	二二、四一七	四三、三〇八	二二、四一七	二二、四一七	二二、四一七
二月	四三〇、二二八	二五三、八二二	一六、一一四七	一〇八、三六三	一〇八、三六三	一一七、九三五	五九、二七五	三六、二一八四	三六、二一八四	三六、二一八四
三月	五八三、九三三	二九四、〇九〇	一九九、五三九	一一七、九三五	一一七、九三五	七八三、四七二	四一、〇二五	四一、〇二五	四一、〇二五	四一、〇二五
四月	四一六、五一七	二二八、二二〇	一一八、八一六	一三〇、一一九	一三〇、一一九	五四五、三三三	三八三、三三三	三八三、三三三	三八三、三三三	三八三、三三三
五月	五〇九、四七七	二二八、三八八	一四九、二三四	一六七、六九二	一六七、六九二	六五四、七〇四	三九、〇八〇	三九、〇八〇	三九、〇八〇	三九、〇八〇
六月	三五六、六六七	二二五、三七五	五五、九二九	一一四、九〇八	一一四、九〇八	四二、二五九六	三五〇、二八三	三五〇、二八三	三五〇、二八三	三五〇、二八三

本島ニ於ケル本品ノ需用ハ極メテ廣大ニシテ然カモ其ノ額ハ逐年増加ノ趨勢ナルガ本島ニ於テハ其ノ産額極メテ微少ナルガ故ニ其ノ大部ハ島外ヨリ搬出セラレ然カモ其ノ量ハ歳々増進シツ、アリ而シテ本年ノ如キモ此ノ趨勢ニ駕シテ其ノ搬入高ヲ増加シ其ノ中支那及香港ヨリ輸出スルモノハ關稅増課ノ爲メ其ノ増加極メテ少シト雖ドモ内地移入品ハ暴風以前ニ當リ年來ノ趨勢ニ駕シテ多額ノ移入ヲナシタルヲ以テ暴風後ハ人氣阻喪シテ頓ニ其ノ移入ヲ減ズルノ己ムナキニ至リタルニ拘ラズ結局百萬餘圓ノ増加ヲ示シ實ニ未曾有ノ盛況ヲ呈シタリ

綿市移輸入價額前年對照表(單位圓)

試ミニ本品ノ移輸入額ヲ示セバ左ノ如シ

計	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
四、七五七、五三九	二、六八三、〇〇〇	二、二九一、五一一	四、〇五七、八	一、五二一、六一六	三、〇八、八七八	三、八一、六六七
三、三六四、四〇〇	二、二九一、九〇二	七、五、一四八	八、一、三九八	三、七三三、三四五	三、七三三、三四五	三、一、三、〇〇〇
一、三九三、一三九	三、三三三、五二四	七、四、三三二	五、七、七二六	三、九、九一三	三、七、一、二五〇	三、七、一、二五〇
四、七、二〇六	四、九、一、八七六	一、一、二、三六二	九、〇、四八一	六、〇、四、二三八	五、〇、七、六八七	五、〇、七、六八七
四、七、四、六四四	三、八、九、六四九	八、四、六四〇	八、〇、八七一	四、七、四、二八九	五、五、五、五一五	五、五、五、五一五
四、二、七、〇三七	三、一、七、四七一	六、四、三、七九	五、九、七、六九五	三、八、一、八五〇	四、八、六、八〇二	四、八、六、八〇二
三、三、六、四、四〇	三、三、六、四、四〇	一、一、〇、五、七、三三	一、一、八、五、一、四九	五、九、六、三、二七三	四、七、四、九、五、四九	四、七、四、九、五、四九

尙ホ参考ニ資スル爲メ臺北廳報告ヲ掲グレバ左ノ如シ

臺北廳報告

内地移入綿布類ハ實ニ本島移入品中ノ大宗ニシテ近年其ノ歩武ヲ進メ本年ノ基隆港ニ於ケル移入額ハ三百三十萬四千餘圓ニ上リ之レニ絹布類同移入二十三萬四千餘圓ヲ算セバ總額三百五十四萬四千餘圓ニ達シ前年ニ比シ約百萬圓ヲ増加シ而シテ本年ノ本島移入全額ハ實ニ五百餘萬圓ニ達セリ其ノ需要ノ如何ニ旺盛ナルカチ知ルニ足ル此等好況ヲ呈スル所以ノモノ蓋シ先年來年々本島人ノ嗜好ニ適スル值安物ノ仕入レハ大ニ一般ノ歡迎スル所トナリ都鄙到ル處實行キノ良好ヲ呈スルニ外ナラズ反之無岸品タル同綿布及金巾類ハ勢ヒ内地品ニ壓倒セラレ其ノ他ノ輸入反布類亦平靜ノ狀アリ以上ノ外日用反布類及大物類トシテ時流季節物ノ如キハ毎年春秋二期ニ於テ内地三越、白木其ノ他ノ吳服商島内各地出張販賣ヲ見ルニ至リ本年ノ如キハ地元同業者雖氣ノ賣出競争ヲナシ大ニ人氣ニ挽ズルモノアリシト雖ドモ内地出張店ハ每時相當ノ利益ヲ見ルト同時ニ地元同業者ノ打撃タルヲ免レズ

第十二章 油 槽

本島ニ於ケル本品ノ需要モ農事ノ改良ト共ニ逐年増加ノ趨勢ナルガ本年モ此ノ趨勢ニ依リ著シク増加シタルガ上ニ四十四年度ノ共同購買品ハ本春ニ入りテ其ノ大部分ヲ輸入シ四十五年度分ハ年内ニ早クモ多額ノ輸入ヲ見ルヲ以テ其ノ輸入ハ實ニ前年ニ倍加スルニ至リ肥料ノ名ノ下ニ移入ニ係ル本品モ前者ノ激増ニ依リ如何ニ其ノ増加ヲ來セルヤヲ推知スルニ足ルベク惟フニ本品ノ輸入價額ハ本年ヲ以テ優ニ三百萬圓内外ニ達シタルベク實ニ如此ハ空前ノ盛況ト稱シテ可ナリ

然リ而シテ會テ重要輸出品タル本島製ハ大體島内消費ノ増加ト共ニ其ノ輸出ハ逐年減少ノ傾向ナリシガ暴風雨ニ因ル原料不作ノ爲メ又々減少ノ已ムナキニ至レリ

油槽輸出入數量及肥料移入價額前年對照表

月次	輸 入	油 槽	移 入	肥 料	輸 出	油 槽
一 月	一、七四七、八七四	四、四〇〇、四二〇	三、四、五、三三	二、一、八、五、四六	五、九、〇、二八	二、六、二、八八
二 月	二、〇三〇、一八五	二、二、六、一、八四〇	四、五、三、二三三	二、五、五、五五八	九、四、三、四二	三、四、四、四〇
三 月	三、九三三、五〇七	二、五、七、七、九九九	一、四、八、五、〇四	八、九、八、四二	—	一、七、四、一、四六
四十五年一元年	—	—	—	—	—	—
四十四年	—	—	—	—	—	—
四十五年一元年	—	—	—	—	—	—
四十四年	—	—	—	—	—	—
四十五年一元年	—	—	—	—	—	—
四十四年	—	—	—	—	—	—

計	十二月	十一月	十月	九月	八月	七月	六月	五月	四月
六五八四九七四一	一八三〇三三三三	四六七二五七六	四二二八二二五	二二八九九八	二二八九九八	二二八九九八	二二八九九八	二二八九九八	二二八九九八
三六〇七九〇〇六	四六六二九八三	四三三二二四九	三三三二二四九	一六九三三三三	一六九三三三三	一六九三三三三	一六九三三三三	一六九三三三三	一六九三三三三
一、五二四、二二六	一三七、七八八	八八、〇〇三	四〇、八三三	一、一三三三三	一、一三三三三	一、一三三三三	一、一三三三三	一、一三三三三	一、一三三三三
一、〇二八、五六六	七七、二二五	六二、五七五	三三、七二六	一〇、一四六	一〇、一四六	一〇、一四六	一〇、一四六	一〇、一四六	一〇、一四六
六八三、七六七	一〇八、七二三	二〇、七〇〇	三六、八六〇	三六、〇〇〇	三六、〇〇〇	三六、〇〇〇	三六、〇〇〇	三六、〇〇〇	三六、〇〇〇
九一八、二八二	一二八、五九六	五九、三七八	二七、五七三	二〇、四八二	二〇、四八二	二〇、四八二	二〇、四八二	二〇、四八二	二〇、四八二
二二七、〇九八	一〇八、七二三	二〇、七〇〇	三六、八六〇	三六、〇〇〇	三六、〇〇〇	三六、〇〇〇	三六、〇〇〇	三六、〇〇〇	三六、〇〇〇
四八、九九三	二二八、五九六	五九、三七八	二七、五七三	二〇、四八二	二〇、四八二	二〇、四八二	二〇、四八二	二〇、四八二	二〇、四八二
五八、七六一	一〇八、七二三	二〇、七〇〇	三六、八六〇	三六、〇〇〇	三六、〇〇〇	三六、〇〇〇	三六、〇〇〇	三六、〇〇〇	三六、〇〇〇
六四、二四二	一〇八、七二三	二〇、七〇〇	三六、八六〇	三六、〇〇〇	三六、〇〇〇	三六、〇〇〇	三六、〇〇〇	三六、〇〇〇	三六、〇〇〇
二九、三八五	一〇八、七二三	二〇、七〇〇	三六、八六〇	三六、〇〇〇	三六、〇〇〇	三六、〇〇〇	三六、〇〇〇	三六、〇〇〇	三六、〇〇〇
四八、九九三	一〇八、七二三	二〇、七〇〇	三六、八六〇	三六、〇〇〇	三六、〇〇〇	三六、〇〇〇	三六、〇〇〇	三六、〇〇〇	三六、〇〇〇

尙ホ參考ノ爲メ臺北廳報告ヲ掲グレバ左ノ如シ

臺北廳報告

督府獎勵ニ加フルニ近年本島農家ノ施肥觀念ノ增長又ハ農會ニ於ケル購買獎勵等著シキ發展ニ伴ヒ輸入大ニ增加シ將來益々順調ノ傾勢アリ本年基隆港輸入ハ六十七萬〇三百餘圓ニシテ前年ニ比シ三十九萬七千餘圓ヲ増シ一昨年ニ比シ實ニ五十八萬四千七百餘圓ヲ増加シ近年不振ノ外國貿易品中注目ニ値スルモノト謂フヘシ

第十三章 石油

本年ノ石油ハ歐米市場ノ騰貴ニ依リ其ノ價格ハ概シテ高價ナリシニ拘ラズ島内ノ需用ハ之レガ爲メ

月次	輸	入	移	入	計
四十五年一元年	二二六、三七〇	三九四、三六八	六三、九八四	一四三、三三〇	三〇〇、二五四
四十四年	四八九、〇〇五	一四一、三四五	六九、七八六	一四、一〇〇	四〇八、六九八
一	二八六、七四七	一八一、七六六	一九〇、三二四	五九、九八五	一五五、四四五
二	二五四、八二五	三〇八、三七三	五四、五五六	二七、〇一一	一八七、七五一
三	一〇〇、〇四〇	二五四、四二六	六四、三二七	九五、三三〇	三三五、三八五
四	八四、九一〇	二五三、六一〇	七九、七八九	四九、六二五	三四九、七五六
五					三〇三、一三五
六					

石油移輸入額前年對照表(單位瓦)

試ミニ本品ノ輸移入額ヲ見ルニ左ノ如シ

ニ衰ヘザルノミナラズ却テ増加シタルヲ以テ輸入モ移入モ共ニ幾分ノ増進ヲ示セリ蓋シ島内ノ需用ハ後里庄及竹仔門ノ配電裝置ノ完成ニ依リ市街地ニ於ケル點燈用ハ減少ノ動機ヲ與ヘタリト雖ドモ田舎ニ於ケル燈火用ハ民度ノ向上ト共ニ漸次増進ノ傾ナルノミナラズ動力用ハ近來頓ニ増加シ加フルニ生蕃討伐ニハ多大ノ需用ヲ増加シ剩サヘ暴風雨ニ依リ發電水路ノ破壞モ本年ニ於ケル需用増加ノ原因ヲ構成シタルヲ以テ叙上ノ如ク其ノ價格ハ例年ニ比スレバ概シテ高價ナリシニ拘ラズ本島ニ於ケル本品市場ハ概シテ活潑ナリシモノトス

計	七 八 九 十 十 十 十 十						
	月	月	月	月	月	月	月
三、三〇五、六五一	四二二、九九一	八三〇、四七	二二八、九三〇	一八八、九六〇	五三八、五四一	四一、二八五	二、九九八、〇四四
二、九二九、九四	二〇二、三九四	二二五、五三〇	三二五、四五一	三五〇、五九六	一九二、八一〇	一七九、三七五	七、四八、七〇七
七、四八、七〇七	五、六八、八二	三、三、八四五	一、五八、七八	二、四、五九一	四、七、五二五	四、七、二二〇	五、九八、二二八
四、六、九、八七三	七、五、七四〇	四、七、八四二	六、一、八八五	八、五、九一一	六、二、二〇二	五、八、二六六	四、〇、五、四、三五八
二、七、八、一三四	四、六、九、八七三	一、六、八、九二	二、三、四、八〇八	二、一、三、五五一	五、八、六、〇六六	四、五、八、五〇五	三、五、九、六、二七二
二、六、一、三七二	二、六、一、三七二	三、八、七、三三九	四、三、六、五〇七	二、五、五、〇一一	二、五、五、〇一一	二、三、七、六四一	

### 第十四章 石炭

本年ノ本品市場ハ生産並ニ消費ノ増加ニ依リ近來稀有ノ盛況ヲ呈セリ蓋シ本品ノ生産並ニ其ノ消費ハ逐年増加ノ趨勢ナルガ前者ハ後者ノ増加ニ刺戟セラレテ前年ノ四億二千四百餘萬斤ニ對シ四億六千四百餘萬斤ニ増加シ其ノ輸出モ從テ幾分ノ増加ヲ示シタリシガ島内消費ハ瓦斯及骸炭製造用トシテ著シク増加シタルヲ以テ製糖用ハ寧ロ劇減シタルニ拘ラズ大體ニ於テ其ノ額大ニ増加シ動モスレバ生産額ヲ超過セントスルノ形勢ナルヲ以テ其ノ移入モ亦多少ノ増加ヲ示シタルノミナラズ本年ハ多額ノ輸入ヲサヘ見ルニ至レリ

今試ミニ其ノ輸出及ヒ移入市場ノ發動期狀況ヲ示セバ左ノ如シ

石炭輸出及移入高表(單位噸)

月次	輸 出		移 入	
	四十五年一元年	四十四年	四十五年一元年	四十四年
一	一九一六	一、三、八三	二、三、六三	七、一、四三
二	一、三、八二	一、一、一七	八、二、二	一、〇〇、一
三	五〇三	一、一、五九	四、二、八七	二、一、八〇
四	三、八一六	二、七、一一	五、三、一七	二、三、六二
五	五、七、二七	三、三、五七	—	八、四、八
六	一、八、二二	五、〇、七三	四、一、〇七	二、六、三六
七	三、〇、九四	三、八、六三	三、二、八三	一、九、〇七
八	三、三、四四	一、七、四八	七	一、五、一一
九	一、七、八三	一、九、三九	—	三〇八
十	一、五、四七	二、九、〇七	六、一、四一	二、〇、一七
十一	二、七、六九	二、七、七七	六、二、六五	二、二、五二
十二	一、六、二一	七、六二	九、五四	九、三五
計	二、九、三、二四	二、八、八、九七	三、三、五、四六	二、五、一、一八

備考 噸以下四捨五入

### 第十五章 木材

本島ニ於ケル本品類ノ需用モ各種經濟的膨脹ト共ニ逐年増加ノ趨勢ナルガ前年ハ秋冬ノ移入期ニ當リテ大阪ノ大火アリ爲メニ產地ノ本品類ハ競ンテ同地ニ搬入セラレ其ノ結果トシテ同期ノ移入高ハ比較的少額ナリシガ故ニ年來ノ趨勢ニ反シテ少シク減少シタルガ如キ感アリシガ本春ニ入り年度未ノ必要ニ迫ラレ多額ノ移入アリ且ツ又冬期ノ移入期ニ在リテハ暴風雨以後ノ復舊工事並ニ市街家屋改築工事ニ因リ大ニ其ノ需用ヲ喚起シテ又々多額ノ移入ヲ見加之福州材ノ如キモ前年ノ反動トシテ多少其ノ輸入ヲ増加シタルヲ以テ前古未曾有ノ盛況ヲ呈セリ

試ミニ本品類ノ移輸入額ヲ示セバ左ノ如シ

木材移輸入額前年對照表

月次	移入木材(立方尺)		移入板(平方尺)		輸入木材(立方尺)		輸入板(平方尺)	
	四十五年	四十四年	四十五年	四十四年	四十五年	四十四年	四十五年	四十四年
一月	二五四、〇七三	二二二、七六九	一一一、二六二	五〇一、三三二	一七九、五五九	九一、七五九	二五、四一九	三四、三五七
二月	二九五、五五三	二八〇、六三三	五八九、三三一	四八八、九七二	二八九、六〇〇	六五、六六五	四四、二〇二	八、九〇七
三月	二五一、五一六	一一一、一三二	八四五、五〇一	四二、六八一	三七、一七一	一〇六、七五四	二九、二二四	六五、〇五九
四月	一九八、〇二二	一三四、〇二五	九五六、三三七	七九七、七五五	七四、一四五	一五九、三三三	五三、〇三〇	七二、一六六
五月	三三三、五三七	一六八、一四三	一一五、七九四	六八一、五〇〇	一六一、六五七	一七七、二四三	六五、五八三	五五、二四五

### 第十六章 金物材料及同製品

本島ニ於ケル本品類ノ需用モ年々増加ノ趨勢ナルガ本年モ其ノ情勢ニ依リテ又々幾分ノ増加ヲ示シ其ノ島外搬入高ハ絶大ノ多額ニ昇リ實ニ空前ノ盛況ヲ現シタリ蓋シ製糖業ニ關シテハ工場ノ新設計劃

尙ホ臺北廳報告ヲ掲ゲ參考ニ資スレバ左ノ如シ

計	十二月	十一月	十月	九月	八月	七月	六月
三、五九二、一七四	三、三二七、五二一	三、一五九、一八三	八、九三九、九〇九	一、七〇四、三三一	一、三九四、〇七一	四、八九〇、八八	五〇三、九八六
一、八八、九六七	一、九四、六七一	四六三、四四六	九八四、九四七	二二〇、四八七	一一七、八七八	一、三六、七八四	二八七、一六二
四三三、〇三六	三〇四、七八七	一、五六七、三〇三	九七五、一五三	一四一、七一	七五、四二二	三三、七六三	二九、九六一
二一八、六九六	二一九、一〇三	八九五、九一三	八六七、四二二	三二、〇七四	七四、〇八七	八四、五〇	二四、九九八
二六七、〇〇九	一七七、二八〇	六七九、四四四	五四六、七七五	七六、七二九	八九、二二四	二九、四三三	三一、四八三
三六一、五八一	一七九、一三六	一、〇七八、七〇八	一、七〇六、七〇九	一、三九、九四三	一、三四、一六	三五、三五一	五七、五五〇
五三〇、九五八	二〇九、八五六	八八九、八四七	四九六、七八〇	一一一、〇六一	一六五、八五三	二八、五八七	二四、〇九三

#### 臺北廳報告

前年暴風雨ノ被害ニ加フルニ本庄暴風雨ノ慘害ニ依リ爾來建築界ノ繁忙ヲ告ゲ且ツ臺北市街地ノ發展ニ伴フ家屋ノ新築又ハ官衙ニ於ケル各種工事及臺北主要市街地ノ商店改築等ハ大ニ斯界ノ活氣ヲ喚起シ各種木材相場強硬ノ氣配ヲ示シ(中略)本年基隆港ニ於ケル木材移入額ヲ見ルニ百十六萬五千餘圓板類同シテ五十一萬餘圓ニシテ前年ニ比シ木材ハ三十萬圓板類ハ約十萬圓ノ移入増ヲ示ス

モ殆ント一段落ヲ告ゲタルヲ以テ之レニ要スル新規建築材料並ニ製糖用諸機械及ヒ軌條等ノ需用ハ幾  
 分減少シタルノミナラズ從來香港ヲ經由シテ仕入シタルモノハ銀價騰貴ノ爲メ割高トナリタルヲ以テ  
 其ノ輸入ハ著シク減少シタルニ拘ラズ各種事業ノ膨脹殊ニ製糖工場ノ増設ト共ニ修繕其ノ他ニ要スル  
 常用向ノ需用ハ著シク増加シタルガ上ニ官營水道工事、築港附屬工事河川護岸工事ニシテ各種金屬材  
 料ノ需用ヲ増加シタルコト夥シク而シテ此等ハ主トシテ内地ノ在荷ニ仰ギタルヲ以テ其ノ移入ハ顯著  
 ナル増加ヲ來シ結局島外ノ總搬入額ハ叙上ノ如ク幾分ノ増加ヲ示セルモノナルガ如此ハ原ヨリ空前ノ  
 事實ニシテ近キ將來ニ於テハ再ビ見ルベカラザル景況ナルベシ

試ミニ本品類ノ移輸入價額ヲ示セバ左ノ如シ

鐵鋼材及同製品移輸入額表 (單位圓)

月次	移入鐵鋼材		同鐵鋼製品		輸入鐵鋼材		同鐵鋼製品	
	四十五年	四十四年	四十五年	四十四年	四十五年	四十四年	四十五年	四十四年
一月	一一七、七四九	一一六、三六九	一〇四、二九七	一三四、一〇八	二五、一七一	八、七五二	一一、四八四	一七二、五四〇
二月	一八五、六六六	八七、五三一	一一九、四七九	一六六、三四四	二九、〇九三	三三、三〇〇	二〇、七六六	六七、五九〇
三月	二〇二、七九五	六七、五七七	一七八、五〇九	二〇一、六二七	三六、七四九	五一、七八〇	九〇、三三九	三三七、五二二
四月	二〇二、五四六	八〇、九九六	一四八、七三二	一七九、〇一九	四四、三七二	九六、四六六	一五、四三七	二五五、五二〇
五月	二八、一八九二	一五〇、〇〇二	二六八、七六二	一一三、三八四	四九、七五一	二一、〇四七	二〇七、九八〇	三八六、二七一

第十七章 セメント

本島ニ於ケル本品ノ需用ハ土木建築工事ノ發達ト共ニ逐年増加ノ趨勢ナルカ故ニ本年モ此ノ趨勢ニ  
 駕シテ可ナリノ増加ヲ示シタリシガ其ノ増加ハ主トシテ南部ニ於ケル土木工事ノ繁忙ニ歸因スルモノ  
 トス蓋シ本年ハ總督府廳舎ノ基礎工事、市街家屋ノ改築工事大料埃溪、新店溪、大安溪等ノ護岸工事  
 ノ爲メ北部ニ於ケル本品ノ需用ヲ喚起シタリト雖ドモ前年ト大ナル徑庭ナシ然ルニ南部ニ於テハ打狗  
 築港工事ノ外下淡水溪架橋工事、阿里山鐵道布設工事、濁水溪護岸工事、製糖工場新設工事等ニ多大  
 ノ需用ヲ惹起シテ前年ニ比シ著シク其ノ額ヲ増加シタルヲ以テ其ノ移入額ハ又々其ノ量ヲ増加シタリ

月次	計	移入鐵鋼材	同鐵鋼製品	輸入鐵鋼材	同鐵鋼製品
六月	二七五、二〇一	一〇五、四九二	二五三、三三九	一一八、二二六	一四〇、三八三
七月	一四一、六三〇	一四四、八六一	一五七、六六七	一四一、〇四一	一一六、一七五
八月	一九六、八七〇	一〇四、五一五	一一三、七〇〇	一三五、七八二	八〇、〇三三
九月	一一一、六三六	二六、〇二六	一四二、七六一	一一五、八四六	八七、六九八
十月	二〇五、〇三〇	一一三、五五三	二〇八、二五六	一〇四、三三〇	四三七、五〇六
十一月	二二六、七五七	一一六、七四〇	二〇三、一〇一	一一五、九〇二	四三、四一一
十二月	三三三、七八六	一六九、八三〇	二二二、一一二	二七〇、三四〇	一四六、三三三
計	二、一三〇、七二八	一、四一三、四九二	二、二二〇、八七五	一、九二五、八五九	一、三三六、六三三

シガ恰モ本年ハ内地ニ於ケル生産過多ノ聲高ク概シテ安値勝ナリシヲ以テ其ノ價額ハ却テ多少ノ減少  
ヲ示セリ  
即チ左ノ如シ

セメント移入額表

月次	大正十四年	大正十五年	大正十四年	大正十五年
一	二	三	四	五
一月	七五九三、一五〇	七、七三二、〇五〇	七、〇〇三、九九六	一、〇四、八八五
二月	七、七三二、〇五〇	四、五四〇、六〇〇	四、八四九、〇五〇	六、九〇八、四
三月	七、七三二、〇五〇	六、〇九一、九〇〇	五、一四八、五〇〇	八、七〇、〇〇〇
四月	六、〇九一、九〇〇	六、四三三、一〇〇	五、二〇六、九五〇	八〇、二二四
五月	六、四三三、一〇〇	四、八三二、一五〇	四、六七八、〇七〇	八七、〇一〇
六月	四、八三二、一五〇	五、二〇六、九五〇	五、一四八、五〇〇	八六、〇六八
七月	五、二〇六、九五〇	四、六七八、〇七〇	四、八四九、〇五〇	一〇九、八四三
八月	四、六七八、〇七〇	四、八三二、一五〇	四、八四九、〇五〇	一〇八、〇二六
九月	四、八三二、一五〇	六、四三三、一〇〇	五、一四八、五〇〇	八、一、四四〇
十月	六、四三三、一〇〇	六、〇九一、九〇〇	五、二〇六、九五〇	一〇九、八四三
十一月	六、〇九一、九〇〇	四、八三二、一五〇	四、六七八、〇七〇	一〇八、〇二六
十二月	四、八三二、一五〇	五、二〇六、九五〇	五、一四八、五〇〇	八、一、四四〇
計	七、七三二、〇五〇	七、〇〇三、九九六	七、〇〇三、九九六	一、〇四、八八五

月次	大正十四年	大正十五年	大正十四年	大正十五年
一	二	三	四	五
一月	八、一四九、四九七	一、〇〇三、七二六	一、〇〇三、七二六	一、六三〇、九七
二月	八、一四九、四九七	一、〇〇三、七二六	一、〇〇三、七二六	一、六三〇、九七
計	七、八二九、〇一四	七、四一三、六九二	七、四一三、六九二	一、二四九、五五一

第七編 移民



# 第一章 總論

農業ヲ目的トスル内地人移民ニシテ單獨經營又ハ民間起業者ノ經營ニ係ルモノハ未ダ其數多カラズ其成績亦見ルニ足ルヘキモノナキヲ以テ之カ記述ハ後日ニ讓リ以下總督府經營ノ移民事業ニ就キ其概略ヲ叙述セントス

總督府カ初メテ本島ニ内地移民ノ移植ヲ企畫シタルハ明治四十二年ニシテ極メテ最近ノ事ニ屬ス是ヨリ先民間二三者ノ土地開墾ノ目的ニテ内地移民招徠ノ計畫ヲナシタル者アリシカ其結果ハ概テ失敗ニ歸シ何等見ル可キノ成績ヲ示サ、リキ而シテ本島近時ノ進歩就中産業ノ發達ハ各方面ニ於テ内地人ニ俟ツモノ多ク本島移民事業ノ必要漸次一般ノ認識スル所トナリシカ移民ノ事元ヨリ國家的事業ニ屬シ獨リ個人的又ハ營利的ノ經營ニ委スヘキニアラサルヲ以テ總督府ハ自ラ此事業ノ遂行ニ當ルノ計畫ヲ立テ明治四十二年四月勅令第九十號ヲ以テ移民事務ニ從事スル定員ヲ制定シ殖産局林務課ヲシテ其事務ヲ管掌セシメ先其實施準備トシテ移民適地調査及移民事例調査並ニ移民ニ關スル經濟的諸調査ヲ行ヒ亞テ明治四十三年移民事務委員會ヲ創始シ移民實施ノ根本的方針ヲ確立スルト共ニ新ニ殖産局ニ移民課ヲ設置シ之カ實行ノ衝ニ當ラシメ花蓮瀋廳下吉野村及臺東廳下旭村ニ移民指導所ヲ開設シ先吉野村ニ移民六十一戸二百九十五人ヲ收容セリ明治四十四年度更ニ吉野村ニ設備ヲ加ヘ百七十六戸八百

八十三人ヲ收容シ前年度收容者ト共ニ二百三十七戸ノ農村ヲ建設セリ大正元年度ハ臺東廳下旭村ニ移民實施ノ豫定ナリシカ同地ハ對蕃關係上尙慎重ノ調査ヲ要スルモノアリシヲ以テ之カ代地トシテ花蓮港廳下豐田村ニ新ニ移民地ヲ設定シ諸般ノ收容準備ヲ整ヘタルモ年度内ニ移民家屋竣功ニ至ラス爲ニ移民ヲ收容スルニ至ラザリキ

### 第二章 移民ノ保護

官營移民ニ對シテハ左記各種ノ保護ヲナス

#### 一、直接保護

- イ、汽車汽船賃割引 移民ノ本島渡航者ニ對シテハ内地及本島ヲ通シテ汽車汽船三等賃金及携帶荷物運賃ヲ五割引トス
- ロ、給與 移民小屋建築費及風呂桶購入費ノ半額ヲ給與スル外移民地最近港上陸ノ日ヨリ到着當日マテノ食料及初年耕作スヘキ主ナル農作物ノ種子種苗ヲ給與ス
- ハ、貸與 移民一戸ニ付左ノ金品ヲ貸與ス
  - 小屋 一棟(建築費約四百二十圓ニシテ其ノ半額ハ給與)
  - 農具 洋犁一臺耙一臺

耕牛 水牛又ハ黄牛一頭

肥料費 約五十一圓

風呂桶 一個(購入價格ノ半額ハ給與)

右ノ外天災其他止ムヲ得サル場合ニ限り食費及渡航費ヲ貸與ス

土地ハ官有森林原野豫約賣渡規則ニ依リ耕地約三甲宅地約一分五厘ヲ貸與ス

ニ、其他ノ恩典 移住後三年間ハマラリヤ豫防藥ヲ無料施與シ藥價及處置料ヲ實費ノ半額(四年リ實費ヲ徵收ス)トシ小學校授業料ハ之ヲ免除ス又土地ノ使用料ハ十三年間之ヲ徵收セス

ホ、貸與費償却 前記土地代金及貸與金品ノ償却ハ無利息十箇年賦トシ移住後四年目ヨリ之ヲ徵收シ其完済ト共ニ土地ノ業主權及貸與物件ノ所有權ヲ付與ス但シ以上ノ返納金ハ之ヲ繰上ケ納付スルモ妨ケス此場合ハ土地代金ノ一部ヲ免除スルコトアルヘシ

二、間接保護 移民ニ對スル間接ノ保護施設ハ後段移民地ノ施設ニ於テ記述スルモ茲ニ其概略ヲ述ブレハ總督府ハ其移民地ニ對シ區劃ヲ測定シ土地ノ荒起ヲ行ヒ道路、輕鐵、灌排水路、飲料水供給設備、野獸防禦等ノ諸工事ヲ完成シ指導所醫療所、小學校、警察官吏派出所、神社布教所、火葬場等ノ諸築造物ヲ建設ス

### 第二章 移民地ノ施設

一、移民指導所直接移民ノ保護指導ニ當ルノ機關トシテ各移民地ニ移民指導所ヲ置キ相當官吏ヲ駐在セシメ左ノ業務ヲ掌理セシム

二、移民ノ指導ニ關スル事項

二、模範耕作ニ關スル事項

現在移民指導所ハ花蓮港廳管内ニ一箇所(外ニ開設準備中ノモノ一箇所)臺東廳管内ニ一箇所合計二箇所ニシテ其位置名稱及設置年月日ヲ擧クレハ左ノ如シ

指導所名	位置	設置年月
吉野村移民指導所	花蓮港廳蓮鄉吉野村	明治四十三年二月
豐田村移民指導所	同廳同鄉豐田村	目下開設準備中
旭村移民指導所	臺東廳南鄉旭村	明治四十三年六月

二、土地 移民ニ賦與スヘキ土地面積ハ耕地約三甲北地約一分五厘ヲ以テ標準トス但該當割地カ己成田ナル場合ハ三甲ヲ一甲五分ニ減シ田畑混交セル場合ハ其比例ヲ以テ面積ヲ定ム耕地ノ區劃ハ一區劃ヲ一甲二厘二毛四糸(一町步)トシ其周圍ニ五間乃至一間ノ除地ヲ置キ道路及小用悪水

### 三、土工及建築

イ、交通 交通運輸ニ便スル爲メ吉野村ニ於テハ同村ヨリ花蓮港ニ通スル幹線五間申道路二十

九町及村内縱横ニ通スル幹枝線道路延長二十里四町ヲ開鑿シ花蓮港海岸ヨリ同村字草分字

路敷地ニ充ツ宅地ハ耕地ノ中央ニ選ヒ其區劃ハ七十戸乃至百二十戸ヲ一團トス吉野村ニ於ケル字宮前及字清水ハ共ニ百二十戸ノ部落ヲナシ豐田村ニ於ケル字森本ハ七十戸字大平ハ八十戸ノ集團ヲナセリ宅地一區劃ノ面積ハ吉野村ニ於テハ平均九厘三毛二糸トセシカ豐田村ニ於テハ之ヲ一分五厘三毛三糸(一反五畝步)ニ増地セリ

移民ニ對スル土地ノ割當ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム明治四十三年度移民ニ對シ施行シタル割當方法ハ各三甲ヲ連續セル同一區劃ニ於テ賦與シタル爲メ耕作上ノ利便ハ即チアリシモ各割當地ノ地味ノ軒輕ハ往々公平ヲ失スルモノアリシカ故明治四十四年度ハ先以テ精密ナル土性調査ヲ行ヒ其評定シタル各區劃ノ評點及等級ニ依リ各區劃ヲ適當ニ配合シテ抽籤番號ヲ定メ割當ヲナシタリ此ノ結果ハ頗ル良好ニシテ各割當地間ノ地味ノ差異ハ極メテ僅少ナル程度ニ止ムルコトヲ得タリ

割當地ハ多クハ到着移民ヲ使役シテ官ニ於テ荒起ヲ爲シ之ヲ交付セリ豐田村移民地ニ對シテハ目下蒸汽犁ヲ以テ荒起中ニテ其墾了面積四十五甲ナリ

宮前ヲ經テ字清水ニ至ル五哩二十鎮ニ輕便鐵道ヲ布設セリ豊田村ニ於テハ各種ノ施設尙未  
 タ整ハサルモノアレトモ猶交通機關トシテ目下五間巾道路一里十町十九間ト輕便鐵道二哩  
 五分ト有ス

ロ、水利 吉野村附近ノ山岳ハ頗ル高峻ニシテ往々急激ナル出水ノ因ヲ作スヲ以テ之ニ對スル  
 設備トシテ吉野村字宮前山脚ヨリ花蓮港街附近ニ至ル長大ナル排水路(延長二千六百四十  
 間)ヲ開鑿セリ

灌溉水路ハ吉野村ニ吉野及宮前ノ二圳路アリ前者ハ木瓜溪ノ上流ヨリ移民地ニ至ル延長三  
 里一町四十三間ノ大圳ニシテ明治四十四年及大正元年ノ二箇年度ヲ費シテ竣成シ其水量優  
 ニ七百甲ヲ灌溉シ得ヘク後者ハ源ヲさばと溪ニ發シ移住地ノ北部ヲ横貫スル小規模ノ圳路  
 ニシテ明治四十四年ノ施工ニ係リ其延長一里十五町五十間其灌溉豫定面積百四十四甲ナリ  
 ハ、飲料水 吉野村ハ其創設當時ハ竹管ヲ用ヒテ山脚ノ溪水ヲ導キ各自ノ飲用ニ充テシカ逐次  
 移民ノ増加ニ從ヒ其水量不充分ナルニ至リタルヲ以テ明治四十四年更ニ工ヲ起シ山脚ノ水  
 源ヨリ字清水及字宮前字草分ニ至ル延長二千四百三十八間ノ土管水道ヲ完成セリ  
 ニ、建築各移民地ニ於ケル主要ナル建築物ヲ舉クレハ左ノ如シ

村名	移民小屋	指導所	小學校	醫療所	布教所	警察官 吏派出所	職員宿舍	農夫小屋	倉庫其他
吉野村	二四〇	-	-	-	-	-	一七	二	四
豊田村	一五〇	-	-	-	-	-	三	三	五
旭村	三九	=	=	=	=	=	三三	六	一三
計									

移民小屋ハ其工費ノ半額ヲ移民ノ負擔トスルカ故之レカ設計ハ専ラ實用ト耐久トニ注意シ其工  
 費ノ可及的低廉ナルヲ期セリ各移民地ニ於ケル移民小屋ノ建坪及工費ヲ舉クレハ左ノ如シ

區分	吉野村		平均(三九〇棟)
	移民小屋(一〇〇棟)	同(一〇〇棟)	
一棟ノ坪數	一七〇坪	一七〇坪	一六・九
一棟ノ工費	四一九〇〇〇	四一五〇〇〇	四一六七九五
豊田村(一五〇棟)		同(四〇棟)	
一棟ノ坪數	一七〇坪	一五〇坪	一六・九
一棟ノ工費	四一九〇〇〇	三六六二五〇	四三三〇〇〇

### 第四章 移民ノ狀況

一、移民募集 移民ノ採用ハ各出願者ニ就キ嚴密ナル身元調査ヲ行ヒ適當ト認メタルモノニ限り之

第七編 移民 第四章 移民ノ狀況

ヲ許可ス其採用標準ハ左ノ如シ

- 一、永年農ヲ專業トシ本島ニ永住ノ意志堅固ナル者
  - 二、身體強壯ニシテ本人又ハ家族中ニ他人ニ嫌忌セラレヘキ疾患ヲ有セサル者
  - 三、素行方正ニシテ嘗テ刑罰ヲ受ケス又大酒賭博等ノ惡癖ヲ有セサル者
  - 四、己ニ一家ヲ成シ又ハ新ニ別戸シテ一家ヲ作り家族ト共ニ移住スル者
  - 五、勤儉ニシテ業務ニ屬精シ且ツ母國人タルノ體面ヲ保チ得ル者
  - 六、渡航費及第一回收穫迄ノ食費トシテ資金二百五十圓以上ヲ携帶シ得ル者
- 以上各項中ニ缺點アルモノ及特種部落ニ屬スル者ハ之ヲ採用セズ又本島在住者ハ特別ノ場合例ヘハ指導所農夫中ヨリ其成績優良ナルモノヲ移民ニ採用スル如キ場合ヲ除キ總テ採用セサルノ方針ナリ

移民ノ募集ハ明治四十三年三月德島縣移民九戸二十人ノ移住ニ其端ヲ開キ爾來年々吏員ヲ内地ニ派シ募集採用セリ其戸數及募集年次ハ左表ノ如シ

募集年次	募集區域	採用者		收容農村	摘	要
		戸數	口數			
明治四十二年度	德島縣	九	二〇	吉野村		
					明治四十三年三月移住	

計	明治四十三年度		明治四十四年度		大正元年度	
	德島縣	九州、中國	九州、中國	九州、中國	九州、中國	九州、中國
	五二	一七六	一五〇	七二四	三三七	一九〇二
	二七五	八八三	七二四	三二四	一五〇	一五〇七
	吉野村	吉野村	豐田村	豐田村	吉野村	吉野村
	明治四十三年十月移住	明治四十四年十一月ヨリ明治四十五年二月ニ互リ移住同年度ハ應募者七百七戸ノ多キニ達セリ	移民地收容設備未了ノ爲メ同年度募集ニ係ル移民ニシテ年度内ニ移住セルモノナシ			内一五〇戸七二四人ハ未渡登

前表人員ハ現在人員ト多少ノ異動ヲ免レス即チ大正元年度末現在移民ニ就キ各府縣別戸口數ヲ舉クレハ左ノ如シ

種別	戸數	口數		種別	戸數	口數	
		男	女			男	女
德島	七二	二〇〇	一九〇	德島	七二	二〇〇	一九〇
香川	三三	八七	七〇	香川	三三	八七	七〇
愛媛	六	一	一	愛媛	六	一	一
廣島	三三	九四	七四	廣島	三三	九四	七四
山口	二一	六〇	五〇	山口	二一	六〇	五〇
熊本	九	三〇	二四	熊本	九	三〇	二四
福岡	一三	三〇	二六	福岡	一三	三〇	二六
佐賀	一〇	六〇	四九	佐賀	一〇	六〇	四九
新潟	六	一一	一〇	新潟	六	一一	一〇
北海道	一〇	三三	二五	北海道	一〇	三三	二五
秋田	二	一	一	秋田	二	一	一
群馬	一	一	一	群馬	一	一	一
岩手	一	一	一	岩手	一	一	一
山形	一	一	一	山形	一	一	一
宮城	一	一	一	宮城	一	一	一
福島	一	一	一	福島	一	一	一
千葉	一	一	一	千葉	一	一	一
計	一三三	六六二	五六六	計	一三三	六六二	五六六

尙右人員ニ就キ其年齡別ヲ掲ケ幾何ノ勞働者アルカヲ示セハ左ノ如シ

第七編 移民 第四章 移民ノ狀況

第七編 移民 第四章 移民ノ狀況

類別	男女		計
	男	女	
五才以上	八〇	七二	一五二
十才以上	一〇七	九〇	一九七
十五才以上	六九	四八	一一七
二十才以上	九二	九一	一八三
三十才以上	八〇	九二	一七二
四十才以上	七〇	五九	一二九
五十才以上	三七	二四	六一
六十才以上	一四	一一	二六
七十才以上	一	八	九
八十才以上	二	一	三
計	六六〇	三六六	一〇二六
勞働者	三五四	三一一	六六五

備考 十五才以上六十才以下ヲ勞働者トセリ

二、衛生狀況 移民ノ衛生ニ就テハ醫療所ノ開設水道及鑽井ノ布設共同浴場ノ建造等各種ノ設備ヲナスト共ニ風土病ノ豫防治療其他一般衛生狀況ニ就キ絶ヘス慎重ノ注意ヲ拂ヒタルヲ以テ吉野村ノ如キハ漸次障礙ノ氣ヲ絶テ衛生狀況好良ニ向ヒツ、アリ今試ニ過去二年間ノ移民ノ罹病者病類別(百分比)ヲ擧クレハ左ノ如シ

年別	病類別											計	
	風土病	傳染病	發育及營養的	皮膚及骨及關節	筋肉病	筋病	器病	行神經及五臟	呼吸器	消化器	泌尿及生殖器		外科性及外傷
明治四十四年	三五五	〇・一	〇・四	六・四	〇・八	一・八	四・七	一〇・七	一七・〇	〇・七	六・〇	五・九	一〇〇・〇
大正元年	二八・八	七・九	〇・三	四・九	〇・五	〇・二	一〇・六	一一・九	一一・九	一一・三	一一・三	〇・二	一〇〇・〇
二箇年平均	三〇・七	五・六	〇・四	五・三	〇・六	〇・六	八・九	一一・五	二〇・五	一・六	九・六	四・七	一〇〇・〇

第七編 移民 第四章 移民ノ狀況

類別	男女		計
	男	女	
學齡兒童數	一四五	一〇〇	二四五
就學兒童數	一四四	八六	二三〇
就學歩合	九九三	八六〇	九三三

由之觀之各種病類中最モ多キハ風土病(マラリヤ)及消化器病ニシテ全罹病者ノ過半ニ同患者ノ占ムル所ナリ而シテ過去二年間ノ比較ハ風土病ハ漸減シ消化器病ハ稍増加ノ傾向ヲ示セリ  
 移民總數ト罹病者トノ對比ハ明治四十四年ハ罹病歩合三九・六%大正元年ハ二九・四%二箇年平均ハ三一・七%ニシテ大正元年ハ移民ノ精神上及肉體上ニ一大打擊ヲ與ヘタル大暴風ノ災厄アリタルニ不拘其衛生狀況ハ前年ニ比シ却テ佳良ノ成績ヲ示セリ  
 三、教育及宗教 小學校々舎ハ移民地ニ於ケル各種建築物中ノ一偉觀ニシテ其建築ノ宏壯ナル其内部設備ノ整頓セル移民子弟ノ教育機關トシテ全ク遺憾ナキモノナリ今明治四十五年三月末調査ニ係ル移民ノ學齡兒童數及就學兒童數ヲ擧ケ其就學歩合ヲ示セハ左ノ如シ

而シテ吉野村小學校ハ現在ニ於テ二百六名ノ生徒ヲ有シ過去ニ於テ二十八名ノ卒業者ヲ出セルコト左表ノ如シ

第七編 移民 第四章 移民ノ狀況

類別	高等科		尋常科		計	
	男	女	男	女	男	女
卒業生	12	7	11	14	23	25
在籍生	1	1	2	7	3	8

宗教的設備トシテ吉野村ハ一ノ神社ト一ノ布教所ト有ス吉野神社ハ明治四十五年六月ノ鎮座ニ係リ左ノ諸神ヲ合祀ス

- 天照皇大神
- 大國魂命
- 大己貴命
- 少彥名命
- 能久親王

移民ノ宗教別ハ佛教二百二十二戸基督教四戸神道一戸其他四戸ニシテ之レヲ表示スレハ左ノ如シ

真宗	真言宗	禪宗	法華宗	淨土宗	天臺宗	天理教	基督教	神道	計
----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	----	---

第七編 移民 第四章 移民ノ狀況

種別	作付面積	收穫高	摘		要
			甲	乙	
甘蔗	五四二・九二五〇	三三・七六〇一三	五六一・三三七四	五六一・三三七四	甲當收量四一、〇三〇斤ニシテ暴風雨被害ノ爲メ五割減

移民耕作ノ農作物ハ其作付反別ノ多キ甘蔗ヲ以テ第一トシ陸稻甘藷粟之ニ亞ク水稻ハ昨年第一期ヨリ其作付ヲ見灌漑水路ノ竣工ニ從テ漸次其面積ヲ増加シツ、アルヲ以テ大正二年度以降灌漑設備完成ニ至ラハ優ニ三百甲ノ水田ヲ見ルコト難カラサルヘシ今本年度耕作ニ係ル主要農作物ノ作付面積及其收穫高ヲ示セハ左ノ如シ

四、農況 移民ハ一般ニ農業ニ勵精シ各割當地ノ開墾工程ノ如キ其進捗著シキモノアリ即チ大正元年度末吉野村ニ於ケル開墾面積ヲ掲ク其工程ヲ檢スレハ左ノ如シ

備考 本表ハ明治四十五年三月末調査ナリ

割當地	總面積	一戸平均	開墾面積	一戸平均	未墾面積	一戸平均
甲	七五六・五八四四	三二〇・五九	六八〇・六二五〇	二八・八四〇	七五・九五九四	三二・二九

作物名	一甲當收穫量		坪	刈	成	積
	調查場所	調查年月日				
第一期陸稻	一〇五四〇〇	一六二〇〇	一六二〇〇	一	一	一六二〇〇
第二期陸稻	九一〇〇〇	一八二〇〇	一八二〇〇	一	一	一八二〇〇
粟	二二七二〇〇	一六五二〇〇	一六五二〇〇	一	一	一六五二〇〇
蔬	八一四五〇〇	八一四五〇〇	八一四五〇〇	一	一	八一四五〇〇
蕎麥	七、四五〇〇	一一八〇〇〇	一一八〇〇〇	一	一	一一八〇〇〇
甘藷	一五、九五〇〇	五九、八五五〇〇	五九、八五五〇〇	一	一	五九、八五五〇〇
芭蕉	五、五四〇〇	二五〇〇〇〇	二五〇〇〇〇	一	一	二五〇〇〇〇
計	六八、九七二五〇					

而シテ已往ノ成績ニ依レハ甘藷ノ成育ハ頗ル良好ニシテ西部地方ヲ凌駕シ水稻亦其試驗栽培ニ好結果ヲ得タリ獨リ陸稻ハ移住當初鳥蟲害及土地ノ熟圃ナラサリ爲メ往々其成功ヲ疑ハシムルモノアリシカ最近ノ調査ニ依レハ其成績亦好良ナルコト左表ノ如シ

作物名	一甲當收穫量		坪	刈	成	積		
	調查場所	調查年月日						
陸稻(第二期)	三三、一〇〇	吉野村字清水	大正元年十一月一日	一	升	二	合	二六七九

備考 本表ハ暴風雨ノ被害跡ヲ成育ノ良好ナルモノヲ掲ケタリ

五、一般狀況 移民ハ一般ニ質朴真摯ニシテ浮華ノ風ナク其生活ノ如キモ質素ヲ極メ所謂殖民地的風潮ナルモノハ全ク移民地ニ於テハ見出シ能ハサル所ナリ如斯ナルヲ以テ移民ノ中ニハ早ク既ニ數百金ノ貯蓄ヲナシタルモノアリ又資ヲ花蓮港街ニ供給セル者アリ以テ一般經濟狀況ノ好調ヲト知スルニ難カラサルヘク今後灌漑設備ノ完成ニ伴ヒ各戶其自作田ヨリ食米ヲ供給スルニ至ラハ移民ノ經濟ハ茲ニ確實ナル基礎ヲ得ルト共ニ益々其健全ナル發達ヲ遂ケヘキヤ疑ナカルヘシ、移民ハ各其移民地ニ於ケル事業ニ對シ如何ニ熾烈ナル熱誠ト執着トヲ有スルカヲ偶然ニモ知ルノ機會ヲ與ヘタルハ大正元年九月ノ大暴風雨ニシテ當時彼等ノ家屋ハ倒壊シ彼等ノ農作物ハ大損害ヲ受ケ各自衛生ヲ顧ル違ナキノ結果遂ニ風土病ノ猛威ヲ逞スルニ至リ死者病者相踵キ至大ノ打擊ヲ蒙リタルニ不拘此困厄ト闘フコト數閱月能ク一人ノ歸還又ハ退轉者ヲ出サ、リシノ事實ハ直ニ推稱ニ値スルモノアリ而シテ如斯ハ各自ノ鞏固ナル土着心ト忍耐勉從順等ノ美德ニ因ルニアラズムハ得ヘカラサル所ニシテ此災厄カ移民事業上ニ與ヘタル損害ハ頗ル莫大ナルモノアリト雖モ能ク其結果ヲ轉シ此高價ナル經驗ヨリシテ移民ハ却テ各自其背後ニアル強大ナル後援ニ信賴シ爾來益々其堵ニ安ンスルト共ニ各又其新ナル運命ノ開拓ニ熱心努力スルニ至レリ



臺灣總督府民政部殖產局

正  
一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十  
二十一  
二十二  
二十三  
二十四  
二十五  
二十六  
二十七  
二十八  
二十九  
三十  
三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三十五  
三十六  
三十七  
三十八  
三十九  
四十  
四十一  
四十二  
四十三  
四十四  
四十五  
四十六  
四十七  
四十八  
四十九  
五十  
五十一  
五十二  
五十三  
五十四  
五十五  
五十六  
五十七  
五十八  
五十九  
六十  
六十一  
六十二  
六十三  
六十四  
六十五  
六十六  
六十七  
六十八  
六十九  
七十  
七十一  
七十二  
七十三  
七十四  
七十五  
七十六  
七十七  
七十八  
七十九  
八十  
八十一  
八十二  
八十三  
八十四  
八十五  
八十六  
八十七  
八十八  
八十九  
九十  
九十一  
九十二  
九十三  
九十四  
九十五  
九十六  
九十七  
九十八  
九十九  
一百

大正三年七月十三日印刷  
大正三年七月十五日發行

臺灣總督府民政部殖產局

臺北々門街二丁目九番戶  
印刷人 上田榮太郎

臺北々門街二丁目九番戶  
印刷所 臺北活版社

1424  
298

大正三年六月十三日發行  
大正三年六月十三日印刷

臺灣縣立醫院

明細帳簿  
臺灣縣立醫院

明細帳簿  
臺灣縣立醫院

14.3  
207

終